

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 105 人

② 算数 105 人

5 留意事項

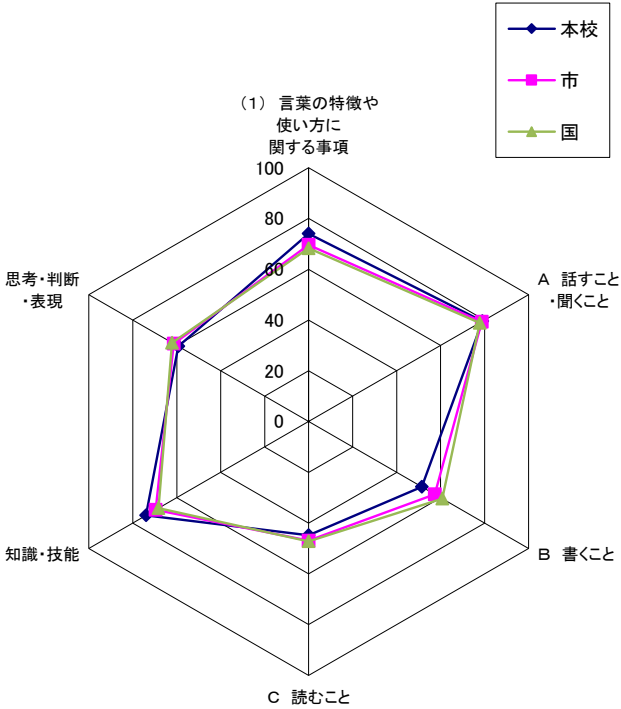
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立戸祭小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	74.0	69.6	68.3
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	79.0	78.7	77.8
	B 書くこと	51.4	57.3	60.7
	C 読むこと	44.8	46.9	47.2
観点	知識・技能	74.0	69.6	68.3
	思考・判断・表現	59.3	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

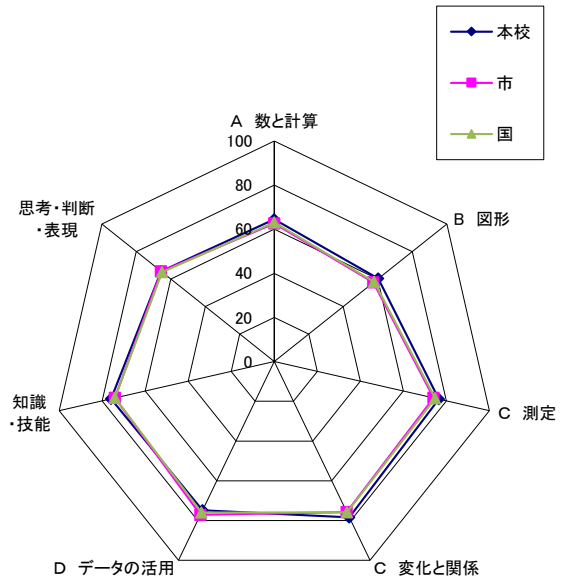
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○本校の平均正答率は市平均に比べ、4.4ポイント高い。 ○文章にある漢字の書き取りでは、「転がって」「積み」「原因」と解答するすべての問題で、県や国の平均を上回っていた。3問中2問は正答率が8割以上で良好な結果となった。 ○文の中における主語と述語、修飾と被修飾との関係を捉える問題では、県の平均を若干上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の問題はよくできていたが、この結果が継続できるよう、復習を定期的に行っていく。 ・日記や作文などの文章の中で正しく漢字が書けたり、日常生活においても既習漢字を進んで使用したりできるように、意識を高められるようにしていく。 ・作文の指導では、推敲の時間を十分に確保し、主語と述語との関係を明確にできているか確認させる。
A 話すこと・聞くこと	○本校の平均正答率は市平均に比べ、4.4ポイント高い。 ○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題の正答率は、県や全国の正答率を4～5ポイント上回っている。	・今後さらなる力を付けるために、話合いのモデルを提示し、互いの考えの共通点や相違点を確認しながら話合いを進めていけるようにする。 ・他教科や教育活動とも関連を図り、児童の日常生活に生きて働くように話合いの場を設定していく。
B 書くこと	●本校の平均正答率は市平均に比べ、5.9ポイント低い。 ●目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の無回答率は、県や全国の無回答率より高い結果となった。 ●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題では、県や全国の正答率を10ポイント以上下回っている。	・授業の中で、自分の考えを理由を明確にしながらいり、友達と文章を読み合ったりする活動の充実を図っていく。自分や友達の書いたものが、目的や意図に沿っているのか、互いに吟味し合う場を意図的に設けていく。 ・家庭学習で日記に取り組ませ、文章を書くことの習慣化を図る。
C 読むこと	●本校の平均正答率は市平均に比べ、2.1ポイント低い。 ○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題では、県や全国の平均を上回っている。 ●目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題の正答率は、県や全国の平均より下回っている。	・朝の読書の時間や図書室の利用を積極的に指導しながら、読書の習慣化を図り、様々な分類の本を読むように指導していく。

宇都宮市立戸祭小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	64.5	62.6	63.1
	B 図形	60.3	57.5	57.9
	C 測定	76.5	74.1	74.8
	C 変化と関係	78.4	75.8	75.9
	D データの活用	74.9	77.1	76.0
観点	知識・技能	75.9	74.1	74.1
	思考・判断・表現	65.6	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○本校の平均正答率は市平均に比べ1.9ポイント高い。 ●「二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く」の平均正答率は、58.1%で全国平均と比べて4.4ポイント低い。 ●「30mを1としたときに12mが0.4にあたるわけを書く」の平均正答率は、50.5%で全国平均を1ポイント下回り、無回答率が17.1%であった。	・基本的な計算の知識や技能の定着を図り、それらをどのように生かして考察できるのか、具体的な場面を取り上げて話し合わせるようにする。 ・何を求めようとしているのか、しっかりと問題の場面を理解できるよう、日ごろから図や数直線に表現させるようにする。 ・基準量と比較量についても、様々な場面を取り上げて、繰り返し学習できる機会を設ける。
B 図形	○本校の平均正答率は市平均に比べ2.8ポイント高い。 ●「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く」の平均正答率は、48.6%で全国平均と比べて2.6ポイント上回ったが、無回答率が9.5%で課題が残った。	・三角形の面積を求める公式など、基本的な図形の知識の定着を図り、それらをどのように生かして応用できるのか、具体的な場面を取り上げるようにする。 ・図形を分解したり、構成したりする具体的な操作活動を取り入れることにより、既習の公式を使って求積できることを繰り返し学習できる機会を設ける。
C 測定	○本校の平均正答率は市平均に比べ2.4ポイント高い。 ○「午後1時35分から50分後の時刻を書く」の平均正答率は、93.3%で全国平均と比べて4.1ポイント高い。 ●「二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く」の平均正答率は、58.1%で全国平均と比べて4.4ポイント低い。	・資料を整理し、必要な数値を読み取る学習においては、資料からわかることを丁寧に話し合わせ、適切な数値を選択できるように指導していく。 ・資料と式とを関連付けながら、どのように求めることができるのか言葉で説明させたり文で記述させたりする機会を設ける。
C 変化と関係	○本校の平均正答率は市平均に比べ2.6ポイント高い。 ○「500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く」の平均正答率は90.5%で、全国平均を4.2ポイント上回っている。 ●「アとイの二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ」の平均正答率は全国平均を5ポイント以上上回っているが、59.0%に留まり、課題が残った。	・具体的な場面にある2つの数量を式に表し、それを基に2つの数量の対応の仕方や変わり方を調べさせるようにする。 ・全体的に無解答率が全国に比べて高いので、基礎・基本の定着を改めて確認するとともに、社会や理科などの学習においても、横断的に指導していく。
D データの活用	●本校の平均正答率は市平均に比べ2.2ポイント低い。 ○「6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ」の平均正答率は99.0%で、全国平均を3.2ポイント上回っている。 ●「114は二次元の表のどこに入るかを選ぶ」の平均正答率は60.0%で、全国平均より8.4ポイント低い。さらに、無解答率も2.9%と課題が残った。	・調べ学習などの機会を逃さず、グラフや表を使ってデータを分類する活動を意識的に取り入れていくようにする。 ・一つの資料からの判断だけでなく、複数の資料を関連付けて結論を出す事象を扱ったり、複数の資料を提示してそこから分かることを交流させたりする。 ・答えを出すだけではなく、なぜそうなったのか、どこからそのことが分かるのかを明確にした授業を展開する。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか」の質問に対して、1時間以上と回答した児童の割合は82.3%で、県や全国と比べて10ポイント以上高い。家庭学習の習慣が定着してきていると考える。今後も児童の家庭学習の意欲向上が図れるように指導を充実させていきたい。

○「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問に対する肯定的回答の割合は92.5%で、県や全国を大きく上回っている。今後も各学級で学級活動のより一層の充実を図り、定期的の実施していきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問に対して、全くしないと回答した児童が31.8%で、県や全国を大きく上回っている。読書時間の確保の他、興味関心を高めるための取組を充実させることで、読書習慣の構築に努めたい。

●「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の質問に対する肯定的回答の割合は78.5%で、県や全国の平均を共に下回っている。学校生活の中で成功体験を積み、最後まで粘り強く取り組むことの大切さや、達成感を味わわせることで、やり遂げる意志の強さを高めていきたい。

宇都宮市立戸祭小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的な深い学びの学習に取り組む児童の育成	児童に本時の授業や学習全体の流れについて見通しをもたせる。それにより、やるべきことが理解しやすくなり、活動の方向性を具体的に考えることができる。よって自らの能力を生かして問いに挑戦しようという意欲がわくと考える。 また、友達と話をし考えを広げたり、他者と関わって問いを解決したりする場を設ける。その取組により、自分の学習に有効であると感じることで、一層双方向のやりとりが充実し学習への効果が上がると考えられる。	「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の質問に対して、当てはまらないと、どちらかという当てはまないと回答した児童の割合は18.6%であった。引き続き、児童の興味関心と学習意欲向上につながる授業改善に努める必要がある。 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」の質問に対して、当てはまると、どちらかという当てはまると回答した割合が99.1%であった。授業の中の発表や話し合いの場面の中で、互いに聞き合う態度が定着化してきている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙の結果から、学校の授業時間以外の家庭学習は1時間以上取り組める割合が高い一方で、読書時間は全くしない児童が30%を超える状況にある。	読書時間の確保と習慣化の構築	朝の読書や読み聞かせによる本に触れる場を引き続き設けることや学校司書や委員会による本に親しむ機会の充実を図っていく。